

# 4月号

# School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



# Dream通信

2013. 4. No. 61

## SAJ 春季教育支援視察ツアー参加者様がお来園 ～確かな絆と新たな絆～



渡邊代表理事との MTG で将来のことを語る



里親様に近況報告と悩み相談



英語や日本語を使ってお客様と会話を楽しむ

皆さん、こんにちは。日本ではすっかり春の陽気だと思えます。ここカンボジアでは、4月に入ると乾季の終わりで一層日差しが強くなったり、雨季も近づくため雨が降ったりと、非常に変わりやすい天気が続いています。

さて、今回の Dream通信では、SAJ 春季教育支援視察ツアー（以下、SAJ ツアー）の参加者様が来園された時の様子について、そして渡邊代表理事からお褒めに預かった孤児院裏農園でのグループ農作業についてお伝えします。

### SAJ ツアー参加者様来園

2013年春のSAJ ツアーが、3月11日から14日にかけて開催されました。12日には渡邊代表理事と里親様、複数回参加された方などが来園され、13日にはツアーの参加者様全員の総勢21名の方が来園されました。

SAJ ツアー時に毎回行っている渡邊代表理事との学年別 MTGでは、子どもたちの最新の成績をもとに、成績の良い子には賞賛を、悪かった子には叱咤激励をしていただきました。子どもたちも年に2回の渡邊代表理事からの言葉に、気持ちを新たに引き締めて、「これからも勉強に励みます」「自分の将来を真剣に考えます」と話してくれました。

また、久しぶりに会う里親様に、近況の報告をしたり、日々の悩みや、将来について真剣に話し込む場面も見られました。子どもたちには園の職員が出来る限りのサポートをしていますが、やはり自分だけの里親様には甘えたり、誰にも言えない悩みを打ち明けることが出来るようです。

里親様が来られなかった子どもたちも、いつも会っている職員とは違う大人と触れ合うことで、自分の将来と重ねてみたり、日本という遠い国への憧れを強くしたり、とそれぞれに感じる事が出来たようです。

今回のSAJ ツアーでも、里親様との確かな絆を感じたり、また、普段は会うことの出来ないお客様との新たな絆を創ることが出来ました。このたくさんの絆に支えられて、子どもたちは日々成長することが出来るということを、改めて感じました。

## 裏農園のグループ農作業

先月もお伝えした、孤児院の裏手にある2haの土地を使った子どもたちのグループ農作業ですが、再開から約2ヶ月が過ぎ、すでに農園全体が緑一色になり様々な野菜が育っています。子どもたちは毎日午後5時から6時の1時間、水遣りや草むしり、虫取りなどを行い、農園を作り上げました。

そして、SAJツアーで来園された渡邊代表理事や参加者様に見ていただき、自分のグループの農園を説明して回りました。子どもたちは、2ヶ月間毎日欠かさずに作業を繰り返して作り上げた農園を、自慢げに案内していました。その後、渡邊代表理事から「よく頑張ったね、えらい！」とのお褒めの言葉をいただき、照れくさそうな、とても嬉しそうな笑顔をしていました。

たくさんの野菜を育てている農園ですが、ひとつの問題がありました。それは、「肥料が足りない」ということです。カンボジアの大地、特に乾季の土は非常に固く、土にはほとんど栄養がありません。今までは、買ってきた牛糞をそのまま種を植えた周りに撒いたり、落ち葉をそのまま土に乗せているだけの状態でしたが、それだと作物が大きくなならない、と住田事務局長からの教えを受け、今回初めて子どもたちが主導となって、鶏糞、米ぬか、籾殻(もみがら)などを使った有機の肥料を作成しました。大きい子がスコップを使って材料を混ぜ合わせ、小さい子がそれを遠巻きに眺めています。大きい子が休憩に入ると、すかさず小さい子たちが私も僕もやりたい！とせがんできます。こうして均等に混ぜ合わせた肥料は、樽の中に入れ、しばらく寝かせた後、各グループに配ります。これで野菜が大きく育つ！と皆わくわくした表情で、その時を待っています。

さて、農園で一番人気の野菜は、何と言っても空芯菜です。種を蒔いてすぐに芽を出し、約20日ほどで食べられるようになるほど早く、また乾季で痩せた大地でも簡単に育つので、カンボジアでは一番重宝されている野菜でもあります。その空芯菜、グループ農作業を始めてから、各グループが先を争うように植えていたので、最近では毎日食卓に空芯菜が並んでいます。子どもたちは、自分のグループの空芯菜が一番おいしい！と言い合いながら、各グループに配ってくれます。いつもの食卓にもう一品増えることで、おいしく、また楽しくご飯を食べることが出来、子どもたちもそれをきっかけにさらに色々な野菜を作ることに精を出しています。

誰に強制されることなく、自分たちの休み時間を使っては農園に顔を出し、皆で楽しく作業を行っている子どもたちの大きな笑い声があふれる農園になったことは、非常に大きな成果であると感じます。



渡邊代表理事を自慢の農園に案内



住田事務局長から農業指導を受ける



自分たちで使う肥料は自分たちで作る



空芯菜がたくさん取れました！